2026 年 5 月 26 日
朝日生命保険相互会社

【イベントレポート】「みんなのあんしん100年プロジェクト」プレス発表会

介護士資格保持者の安藤なつ（メイプル超合金）さん、石田純一さん、介護経験者の新田恵利さんが本音トーク

朝日生命保険相互会社（社長：石島健一郎、以下「当社」）は、2026 年 4 月より開始した新プロジェクト「みんなのあんしん 100 年プロジェクト～朝日の介護認知症エコシステム～」の本格始動に伴い、5 月 26 日（火）にプレス発表会を開催いたしました。

発表会には、介護福祉士の資格を持ち、今年認知症介護に関する著書も出版されたメイプル超合金の安藤なつさん、6 年半実母の介護を経験し現在、淑徳大学総合福祉学部客員教授でもある新田恵利さん、そして今年 72 歳を迎え、認知症や介護について興味関心を持つ石田純一さんの 3 名を招き、備えておきたい認知症や介護についてクロストークを実施しました。

■社長　石島健一郎より「みんなのあんしん 100 年プロジェクト」始動の背景を発表

冒頭、社長の石島が登壇し「2030 年には、要介護者が約 950 万人に達し、介護者の離職などで発生する経済損失は約 9 兆円にものぼる」と深刻化する認知症が社会課題になっていることについて述べました。「人生 100 年時代、長生きして良かったと思える生活や社会を実現するため、包括的な介護ソリューションを外部企業と協力しながら提供していく」と語りました。

■介護・認知症社会の新たなエコシステム

続いて本プロジェクトの担当者が、エコシステムの全体像をスライドで示しながら、認知症の発症前から発症後までのフェーズに応じたサービスを紹介しました。

「これらのサービスは『みんなのあんしん介護認知症ナビ』というポータルを中心に、家族とともに認知症やその介護に取り組むサービスです。要介護者本人の発症前から発症後、またその家族のアフターフォローまでをサポートします」と、エコシステムとしての価値について説明しました。

また、本プロジェクトは現時点では当社のご契約者様を中心としてサービスの提供を進めていますが、介護・認知症

は日本社会全体が直面している課題であり、その解決に貢献するためには、サービスの対象をご契約の有無にかかわらず広げていく必要があるとの考えを示しました。将来的には、自治体や医療機関、地域包括支援センター、さらに多様なパートナー企業との連携をより深めることで、「介護・認知症で困ったら、まず朝日生命に相談する」という社会的な認知の確立を目指します。担当者は「お客様の声を反映しながら、介護領域全般にサービスを広げ、将来的には自治体との連携も視野に入れながら社会的なサービスへと発展させたい」と述べました。

■異なる立場の３人が、認知症や介護についてクロストークを展開

続いてのクロストークでは、メイプル超合金の安藤なつさん、石田純一さん、新田恵利さんが登壇。介護福祉士の資格を持つ安藤さんは介護のプロの視点、現在 72 歳となった石田さんは介護を考える側の視点、新田さんは認知症介護の当事者の視点と３つの視点から、ご自身の経験や日頃の備えについてそれぞれの想いや考えを語りました。

認知症の誤解：認知症は病名ではない

介護福祉士の資格を持つ安藤さんが「老化と認知症の判別は非常に曖昧で、診断には半年から 1 年ほどかかる」「そもそも認知症とは病名ではなく、脳が何かしらの病気にかかっている状態」と解説。さらに、認知症は本人が生活しづらい状態になっていることである、と解説しました。

石田純一さんの脳年齢を大公開！

認知症は病名でなく状態であり、誰にでも起こりうるもの。そこで、今の脳の状態を知るために、石田さんが脳年齢測定にチャレンジしました。石田さんが試した「トークラボ KIBIT」は、AI 解析によるあたまの健康度判定ツールです。
事前にテストを行った石田さんはまだ結果を見ておらず、「実際体験してみると難しかった」と心配していましたが、気になる結果はなんと「A 判定」！好成績を叩き出した石田さんは「妻に是非言っておきたい」と述べました。

家族の向き合い方との誤解：「親の好物や行きつけを知っていますか？」

介護の前に、まず親の日常や暮らしを見る、理解することが大切です。「親の好物や行きつけを知っていますか？」という安藤さんからの問いかけに、新田さんは「母とは普段から仲が良く、要介護の状態になった際もスムーズにコミュニケーションが取れた」と、普段からの会話の重要性について語りました。安藤さんが「"まだ大丈夫"なうちに専門職とつながることが何より重要」と実体験ベースのアドバイスを伝授しました。また、石田さんも「専門職の人と“オール家族”で介護に臨むことが大切」と返しました。

第三者の手の借り方：プロの手を借りることで、本来の家族に戻る

親の異変に気が付いたら、それが相談のベストタイミングだと安藤さんは語ります。かかりつけ医や地域の包括支援セン

ターなど「家族だけで抱え込まず、外の世界と繋がっておくことが大切」と伝えました。石田さんも「認知症介護が改めて他人ごとではないと実感しました。自分だけは大丈夫と思わないことが大切」と決意を固めていました。

社長の石島も「職員は認知症サポーターのプロフェッショナル。資産凍結も含めて、まだまだ認知症や介護の分野では取り組まなければならない課題はたくさんあります。家族信託というサービスがあることも、世の中に伝えていく必要があります」と述べました。

■ 「みんなのあんしん100年プロジェクト～朝日の介護認知症エコシステム～」の概要

朝日生命保険相互会社が2026年4月より開始した、介護・認知症領域における深刻な社会課題の解決に向けた新プロジェクト。介護保険の普及による金銭的な保障にとどまらず、介護・認知症領域のあらゆる局面でお役に立つサービスを外部企業と協力してお客様に提供する「介護認知症エコシステム」を構築します。

ニュースリリース：「みんなのあんしん100年プロジェクト」を2026年4月より提供開始（https://www.asahi-life.co.jp/company/newsrelease/20260326.pdf）